

令和2年世界かんがい施設遺産登録 常西合口用水の概要

～国内屈指のあばれ川を克服した日本最古の大規模合口用水～



常西合口用水は、富山県富山市を流れる延長約 12km の用水路で、世界有数の急流河川である常願寺川の左岸を並走しており、農地約 3,300ha を潤すとともに、上水道や工業用水のほか、水力発電にも活用されるなど、地域の暮らしを支える大事な農業用水である。

明治以前、両岸には数多くの用水と取水口があり、特に流れの強い左岸側においては、洪水の度に取水口の崩壊や土砂埋没により、氾濫被害が発生していた。この状況を踏まえ、明治 24 年 (1891 年) にオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケは、常願寺川左岸にある 12 の用水の取水口を廃止し、上流の安全な箇所に統合取水口を設置する「用水の合口化」を提唱。

当時、同用水のかんがい面積は約 5,000ha に及び、このような大規模な合口化は全国でも初めての試みであり、統合取水口や隧道、幹線水路、沈砂池等の工事は非常に困難を極めたが、1 万人以上の作業員を県内外から動員するなどして、わずか 2 ヶ月という短期間で完成に至った。同用水の完成に伴い、取水の安定化や氾濫被害の軽減等により、稲作の増産が図られ、全国屈指の穀倉地帯の発展に繋がるとともに、全国各地で合口化が広まった。

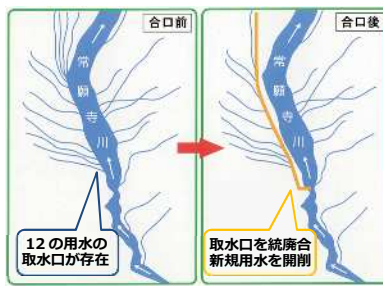
また、明治 33 年 (1900 年) に同用水の下流では、度重なる洪水により流れ込む土砂対策として、新庄排砂水門が造成された。同水門は赤煉瓦で構築され、「新庄の赤門」の名で長年にわたり、地域の住民から親しまれている。さらに、同用水の中流には、常願寺川の氾濫を防ぐために戦国時代に築かれた堤防「佐々堤」の一部が水路の底面に残っており、今も当時の姿を確認できる。

近年では、昭和 59 年 (1984 年) から平成 3 年 (1991 年) にかけて、全国に先駆けてやすらぎのある水辺空間「常西プロムナード」の整備を実施。毎年桜の時期には、このプロムナードで「ごんべ祭り」が開催されるなど、地域の憩いの場として利用されている。また、平成 18 年 (2006 年) には、疏水百選に選定されるなど、歴史的・景観的にも県民にとって貴重な施設となっている。

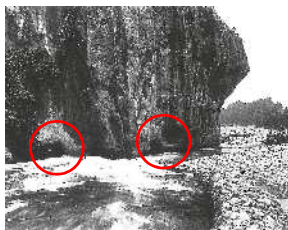
世界かんがい施設遺産の登録を契機に、施設所有者の常西用水土地改良区をはじめ、本県では、より多くの方々に「常西合口用水」の歴史や役割、魅力が伝わるよう、一層の広報啓発に努めるとともに、地域の活性化に繋がることが期待される。



常西合口用水 (常西プロムナード)



合口化対比図



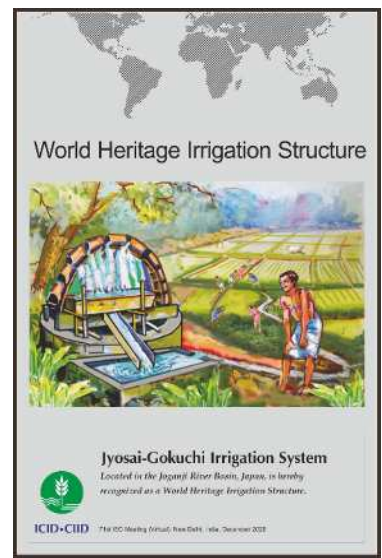
当時の統合取水口



新庄排砂水門



佐々堤の一部



登録施設に授与される記念品 (盾)

常西合口用水歴史年表

安政 05 年 (1858 年) 02 月 [※]	飛越地震発生、常願寺川の源流である大鷲山・小鷲山崩壊
安政 05 年 (1858 年) 03 月 [※] ※旧暦 04 月 [※]	度重なる地震により大泥水湖が決壊し、大土石流が発生 大洪水により常願寺川沿岸一帯が氾濫、甚大な被害が発生
明治 16 年 (1883 年) 08 月	内務省オランダ人技師ローウェンホルスト・ムルデルが来県 富山県内の各河川を調査
明治 24 年 (1891 年) 07 月	大豪雨により常願寺川沿岸一帯が氾濫、甚大な被害が発生
明治 24 年 (1891 年) 08 月	内務省オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケが来県、調査 後に、常願寺川の改修計画（用水の合口化など）を提唱
明治 25 年 (1891 年) 01 月	デ・レーケ指導のもと富山県の土木技師（内務省より派遣） 高田雪太郎が常願寺川の改修工事の基本計画を立案
明治 25 年 (1892 年) 02 月	常西合口用水開削事業に着手
明治 25 年 (1892 年) 10 月	旧第 1 隧道、旧第 2 隧道及び上滝砂溜池が完成
明治 26 年 (1893 年) 04 月	常西合口用水が完成、全面通水
明治 27 年 (1894 年) -	新第 1 隧道（鷹泊の統合取水口）が完成
明治 33 年 (1900 年) 12 月	新庄排砂水門（新庄の赤門）が完成
昭和 20 年 (1945 年) 02 月	同用水を利用した水力発電所「常願寺川第 1 発電所」が完成 後に、第 2、第 3、第 4 発電所が建設される
昭和 27 年 (1952 年) -	国営常願寺川農業水利事業（横江頭首工等）の完成に伴い、 両岸（常西・常東）一体の合口化が実現
昭和 37 年 (1962 年) 08 月	常西用水土地改良区と富山市が上水道に関する契約を締結
昭和 44 年 (1969 年) 03 月	常西用水土地改良区と富山市が工業用水に関する契約を締結
昭和 59 年 (1984 年) 04 月	県単独事業「やすらぎのある農村施設整備」により全国初の モデル地区として、水辺空間の整備を実施
平成 04 年 (1992 年) 03 月	上記事業により、常西プロムナードや小公園が完成
平成 04 年 (1992 年) 06 月	常西合口用水開鑿 100 周年記念式典を挙行
平成 05 年 (1993 年) 04 月	常西プロムナードを活用し「第 1 回ごんべ祭り」を開催 平成 31 年 4 月時点で 26 回開催済み
平成 18 年 (2006 年) 02 月	全国の「疏水百選」に選定
令和 02 年 (2020 年) 07 月	同用水を利用した小水力発電所 「常西幹線発電所」が完成
令和 02 年 (2020 年) 12 月	世界かんがい施設遺産に登録

